



理事長あいさつ

公益財団法人 岩手県スポーツ協会
副会長兼理事長 谷 藤 節 雄

岩手県体育協会は、7月から岩手県スポーツ協会と名称を改めました。今後も本県のスポーツ振興に努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

今回は、私が最近のスポーツに関する出来事から考えたこと、感じたことについて述べさせていただきます。

【「そつがないプレー」は美しい】

大谷選手、菊池選手の活躍により大リーグやプロ野球等、超一流のプレーを観る機会が多くなりました。テキパキと手際がよくミスも少ない、そつがないプレーを実践し続ける選手には日々感心させられます。

この夏の全国高等学校女子硬式野球選手権大会決勝（花巻東高校対神戸弘陵学園）を観戦した際にも、選手達のそつがないプレーはとても魅力的でした。解説者は、その様子を「かなり鍛えられた両チームの選手ですね。」と表現されていました。選手のそつがないプレーの継続や徹底ぶりは観る者を魅了し、応援したい気持ちを掻き立て、グラウンドと応援するスタンドが一体となっていて、とても美しく感じました。

今後も1つ1つのプレーを確実に積み重ね、成功を目指してひたむきに努力する選手、「そつなくこなし、新しいことに挑戦する選手」を応援していきたいと思えます。

【競技体験会と地域クラブの活性化】

各競技団体の努力の成果として本県ゆかりのオリンピック選手等、世界で活躍する選手が多数輩出されており、その多くの選手が本県のスポーツ少年団や地域クラブの普及・育成に関わっています。

4月には、八幡平市で小林陵侖さんがスキージャンプの体験会を実施し、10月のスポーツの日には、県営運動公園にボクシングの八重樫東さんほか多くの選手・競技団体と1,600名もの小・中学生が参加して「スポーツフェスティバル 2024」を大いに盛り上げていただきました。

児童・生徒・保護者の皆さんは新しい競技と出会って選手から刺激を受け、自らの競技選択の広がりや可能性を感じたと思います。また各競技団体・選手は、地域クラブの立ち上げや活性化に向けて参加者の皆さんから大きなエネルギーをいただきました。各競技においてジュニア世代の発掘・育成が重要視されており、今後も県として事業を継続してまいりますので、各競技団体にはより一層のご協力をお願いいたします。

【主体的で研究心の高い選手の育成】

パリ五輪には、バスケットボール男子代表が48年ぶり、バレーボール男子代表が16年ぶりに自力出場しました、36年ぶりに自力で出場権をつかんだハンドボール男子代表では、2015(H27)年に花巻市で開催された全国中学校体育大会で優勝を果たした選手も活躍していました。富山県氷見市立西条中学校のメンバーとして参加していた安平光佑（やすひらこうすけ）選手です。安平選手は当時168cmとハンドボーラーとしては小柄な選手でしたが、多彩なテクニックを駆使して着実にシュートを決め、地元の矢巾中学校との決勝戦では、両チーム最多得点をあげるなど大変印象的な選手でした。

当時の優勝インタビューで、「憧れの選手はクロアチアの世界的プレーヤー、イヴァノ・バリッチ選手、将来の夢は会場を沸かせるプレーヤーになること。」と答えていました。大会後、安平選手とバリッチ選手の試合ビデオを比較して驚きました。安平選手のプレーには、バリッチ選手に似たステップやシュートが多く見られ、日頃からバリッチ選手の映像を何度も観てプレーを研究し、それを自分に生かすべく練習を重ねてきたことが推察されたからです。

高校に進み安平選手は、選抜・インターハイ・国体の「3冠」を達成しました。大学では、在学途中から欧州でプレーし、今回のパリ五輪では全日本の中心選手として活躍してくれました。他競技においても、自ら情報を収集し主体性を持って取り組むことができる人材が多く輩出されていますが、私達はどの世代においても主体的で研究心の高い選手を育成し、支援できる環境をつくっていききたいと思えます。

これからも県スポーツ協会は、スポーツが県民に与える「元氣」や「勇氣」をエネルギーとして、その力が岩手の復興と更なる発展の一助となるよう取り組んでまいります。今後とも皆様の御支援と御協力をお願いいたします。

【つばやき】

運動会のスタートを英語にしてはどうでしょうか？「位置について」は「On your marks (オン・ユア・マークス)」、「用意」は「Set (セット)」となります。